

平成27年度 助成事業報告書

一般社団法人ダイアログ・ジャパン・ソサエティ

事業名: 障がい者理解のための意識啓発イベントの開催事業

事業ID: 2014243893



はじめに

DIALOG
IN THE
DARK



目次

はじめに

1. 意識啓発イベントの実施
2. 意識啓発イベントのモデル調査
3. 調査報告会

おわりに



1. 意識啓発イベントの実施

ダイアログ・イン・ザ・ダーク SAGA 2015 開催

■ 背景・目的

本取組は「Dialog in the Dark」の地方都市開催に向けた事前調査と実証実験、地元官公庁や企業関係者へのアピールを兼ね、地方都市で当イベントを短期開催し、視覚障害に対する理解の深化と、新しい社会参加の方法を提案することを目標とする。

■ 開催概要

- ✓ 会場: 佐賀県 佐賀市文化会館
- ✓ 日時: 2015年8月28日～31日
- ✓ 内容:
 - (1) 佐賀県庁職員(所属長)向けワークショップ
 - (2) 一般参加者向けイベント
- ✓ 対象者: 県知事、地元官公庁、現地企業、CSO団体職員、篤志家、学校関係者、児童生徒、視覚障がい者とその支援者、等

■ 開催実績

- ✓ 体験者数: 210名
 - 県庁職員研修参加者: 68名
 - 一般参加者: 142名

一般参加者向けの開催の初日には、佐賀県知事 山口祥義氏も参加。アンケートに「県民すべてに参加させたい」と記入されました。

Q.この体験を誰に薦めたいですか？

みんなへ

山口県知事のアンケートより



ダイアログ・イン・ザ・ダーク SAGA 2015 開催

■ メディア露出

佐賀新聞、朝日新聞、他いくつかのWEBメディアへの掲載があった。



朝日新聞 2015年9月13日



佐賀新聞 2015年8月25日(1面)

ダイアログ・イン・ザ・ダーク SAGA 2015 開催

DL
IN
THE
DRK

■ 講演

本取組をきっかけに要望を受け、以下の講演を行った。

- ✓ 8月25日(火)基山フューチャーセンター主催
「セラピストから見るダイアログ・イン・ザ・ダーク
の効果」～暗闇の中の対話～
当団体代表理事・志村季世恵 登壇
- ✓ 8月31日(日)佐賀点字図書館主催
「暗闇から世界が変わる ダイアログ・イン・ザ・
ダーク・ジャパンの挑戦」
当団体理事・志村真介 登壇

佐賀点字図書館には、当該書籍の点訳も行って
いただいた



今後の展開

■ 行政との連携モデルの模索

本取組みをきっかけとして佐賀内に「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」への理解が進み、行政と連携して取組みを継続するモデルの模索が始まっている(日本初)。

おもな行政連携の動き

2015年

- ✓ 8月10日 県内活動のためNPOを設立
- ✓ 8月24日 NPO設立に伴い県と進出協定を発表、県が活動に協力することが明文化された
- ✓ 11月5日 CSO協働提案制度を用い、県・市町の各担当課員に、2016年度以降のダイアログ・イン・ザ・ダーク開催について呼びかける説明会を開催(この後、随時質疑などに応じる)
- ✓ 11月20日 佐賀県へのふるさと納税を通じたNPOへの寄附制度に参加

2016年

- ✓ 3月25日 県が「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」開催を2016年度予算化し、事業委託に向け調整に入る

■ 視覚障がい者雇用の推進

今後、視覚障がい者理解促進の足掛かりとして、点字図書館との関係性ができたことは大きな成果である。

また当事者である視覚障がい者3人にもダイアログ・イン・ザ・ダークを体験してもらうことができ、新規雇用に興味がある方もいらしたため、まずは短期開催における雇用にむけて調整している。



2. 意識啓発イベントのモデル調査

DID国際会議でのヒアリング及びドイツ会場視察

■ 背景・目的

聴覚の使わない世界の楽しさやその中での人とのふれあいを通じて、聴覚障がいへの理解を深め、対人交流を促進するエンターテインメント「Dialog in Silence」がドイツ等において開催され、一定の効果を得ている。日本国内でも、同イベントを開催することを目的に、海外での先行事例を調査することを目的とする。

■ 開催概要

(1)ダイアログ国際会議でのヒアリング

- ・ 日時:2015年10月2日～5日
- ・ 場所:シンガポール ニーアンポリテクニク
- ・ 内容:各国のダイアログマネジメント層へのヒアリング

(2)ドイツ ダイアログ・イン・サイレンス視察

- ・ 日時:2016年3月17日～20日
- ・ 場所:ドイツ ハンブルグ
- ・ 内容:実際のダイアログ・イン・サイレンスへの参加および撮影、体験者やスタッフへのインタビュー

■ 実績

ヒアリング結果

- ✓ ダイアログ・イン・サイレンスを行うことは、ダイアログ・イン・ザ・ダークだけを開催することよりも、参加者の気づきをより深めることができる:
ダイアログ・イン・ザ・ダークは人によってはバンジージャンプのように「WOW!」で終わってしまうこともあるが、ダイアログ・イン・サイレンスは、参加者がより洗練された視点でインテリジェントに考えやすい仕掛けになっている。
- ✓ ダイアログ・イン・ザ・ダークとダイアログ・イン・サイレンスを併設することで、子どもでも、より広い目で障がいやダイバーシティについて捉えることができる:「視覚障がい者はすごい」のではなく「誰もがすごい」ということに。
- ✓ ダイアログ・イン・サイレンスを開催するには優秀な手話通訳者が必要になる:手話は各国で異なることもあり、外国のお客様が来る会場ではInternational Sign Languageと英会話ができる人が望ましいが、そうした人材は稀。



DID国際会議でのヒアリング及びドイツ会場視察

■ 実績

会場視察による写真・動画素材



- ✓ 動画はウェアラブルカメラで撮影
- ✓ 体験者・スタッフへのインタビューも実施

3. 調査報告会

調査報告会

■ 背景・目的

聴覚の使わない世界の楽しさやその中での人とのふれあいを通じて、聴覚障がいへの理解を深め、対人交流を促進する「Dialog in Silence」を日本国内で開催することを目的に、協力者・賛同者を募り、また、聴覚障害者コミュニティへ新しい働き方をアピールするための広報コンテンツの開発を行い、また、それを用いた講演やプレゼンテーションを行う場として調査報告会を行う。

■ 開催概要

(1)個別の折衝

- 日時: 随時
- 場所: 都内近郊
- 内容: 関係者に「Dialog in Silence」のコンセプトを伝え、協力を要請

(2)ドイツ会場視察結果報告会

- 日時: 2016年3月26日
- 場所: ダイアログ・イン・ザ・ダーク東京オフィス
- 内容: 視察結果報告会

■ 実績

- ✓ 個別折衝によって、各方面との関係性を構築することができた。
- ✓ 関係者を大勢集めてのプレゼンテーションは現実的でないことから個別での折衝が中心となった。
- ✓ そのため、調査報告会自体は主要スタッフを対象とする小規模なものとなった。



おわりに

視覚障害者の雇用について

ダイアログ・イン・ザ・ダークのご利用は、ダイレクトに視覚障害者の雇用機会創出になります。彼らは、障害者「でもできる」仕事ではなく障害者「だけができる」仕事をし、多くのゲストの皆様と関わり、自分の個性を活かして働きます。そうして自己肯定的に社会参加をしています。

ダイアログ・イン・ザ・ダークのスタッフの6割が障害者であり、賃金体系は健常者と変わりません。(*1)ミーティングや意思決定にも参加し、お互いを尊敬しています。本当の意味で対等な関係が、社会全体に広がることを願っています。

*1…一方、福祉作業所での工賃の全国平均は、月給1万3千円(厚生労働省,2010)

「おはよう」が聞こえる毎日へ

ダイアログ・イン・ザ・ダークは、ゲストの皆様、「人と対話することの喜び」を感じて頂くこと、また日常にお戻りになった後にも日々の対話をより楽しんで頂くことを目指しています。

体験後はぜひ、周りの方、ときには知らない方とも「おはようございます」と挨拶してみてください。そしてあらゆる人と対等な関係性の中で、対話をお楽しみ下さい。

いつか暗闇になんて入らなくても、すべての人がお互いに認め合い、対話する社会になることを、私たちは願っています。

